

## 第6回

1. 日 時 平成15年7月2日(水) 13:30~15:30

2. 場 所 東京都港区虎ノ門4-1-1  
虎ノ門パストラル 本館8階 しらかばの間

3. 委員の現在数 4 名

4. 出席した委員の数及び氏名

委員長 若杉 敬明

委 員 中村 実

委 員 山崎 元

以上 3名 出席

5. 議 題

- ・平成14年度積立金運用実績(報告)
- ・格付引下げ時の対応について(審議)

6. 開 会

委員長から、本日の積立金運用委員会は同規則第4条の規程による定足数を満たしているので、有効に成立している旨の報告があった。

続いて、板倉治成理事長が挨拶を述べた後、経済産業省放射性廃棄物対策室長の山近氏よりご挨拶を頂き、議事に入った。

7. 議事の概要

井上毅専務理事から、上記5.の議題について下記を説明。

・平成14年度積立金運用実績について

平成14年度運用額は、平成13年度積立金受入分(約700億円)から原環機構への取り戻し額を差し引いた額に、当期の利息収入を加えた約672億円。

運用内訳は、国債331億円(49%)、政保債102億円(15%)、地方債99億円(15%)、社債140億円(21%)。

購入債券の平均利回りは1.39%で、運用の評価基準となる同時期におけ

る長期国債平均利回りである 1.17 %を上回った。

・格付引下げ時の対応について

「資金管理業務実施細目」の別表では、保有可能な有価証券の範囲として、「A A 格以上の格付を付与されたもの」とされ、あわせて保有銘柄の格付引下げ時の対応について「売却を行うか保有するか総合的に判断」と規定されているが、具体的な対応手順について整備しておくべきという意見をふまえ、(1) A A 格以上の状態での保有債券格付管理、(2) 全ての格付機関の格付けが A A 格未満となった時の対応、(3) 全ての格付機関の格付けが A 格未満となった時の対応、に分けて整理し取り纏めた。

その後、当該議題について審議した結果、了解を得た。

8 . 次回スケジュール

平成 1 6 年 1 月を目途に開催したい。

9 . 閉 会

以上をもって議事全てを終了し、委員長は閉会を宣した。

< 委員会で寄せられた意見 >

・平成 1 4 年度積立金運用実績について

平成 1 4 年度運用分については、運用計画に沿った運用となっており、一方、購入債券の平均利回りも、同時期における長期国債平均利回りを上回っており評価される。

一方、本年 3 月に平成 1 4 年度積立分として受け入れた約 700 億円の運用については、これまでのところ、ほぼ計画に近い運用になっている。年度初め長期金利が更に低下し、史上最低の金利水準となった後、反転して一時上昇するなどの局面があったものの、今後の運用については、当面、短期的な金利の動きに左右されず、当初運用計画に沿って行うのが適当ではないか。

・格付引下げ時の対応について

日常的な管理として、保有債券の格付けの変動及び関連情報があれば、直ちに理事長に報告し、毎月末に保有債券の格付け状況の一覧を取り纏め関係先に報告することでよいのではないか。

また、発行体に関する情報を定期的に収集し、当センターの運用対象としているAA格以上という基準を下回る前の段階で、事前に発行体の業績見通し等の分析、評価を行っていくということではないか。

保有債券のうち、全ての格付機関の格付けが、AA格未満となった時の対応については、直ちに状況を理事長まで報告の上、保有するか売却するか、引き下げとなった理由、他格付機関の格付動向、債券の時価等をふまえ方針案を策定し、理事長決裁を得ることでよいのではないか。

保有継続を決定した場合、関係先並びに次回積立金運用委員会に報告するとともに、当該債券についての情報収集を強化し、毎月末の情報を元に保有を継続することの是非について協議し、理事長の承認を得ることでよいのではないか。

また、当該債券がA格ゾーンの中で更に格下げとなった場合は、必要に応じ随時協議するということがよいのではないか。

保有継続について検討の結果、売却することとなった場合、もしくは、保有債券のうち、全ての格付機関の格付けがA格未満となった場合は、関係者に報告の上、速やかに売却のための入札を行い、結果を関係先並びに次回積立金運用委員会に報告することでよいのではないか。

「事務局」資金管理業務部	TEL : 03 - 5157 - 5850
--------------	------------------------